

# 「浪漫街道」の楽曲制作について

---

## Last lot コメント

### ドラム担当 鈴木登士勝

この浪漫街道のお話を頂いた時に、まず真っ先にイメージしたのが渥美半島をドライブするという事でした。南国を思わせる真っ直ぐな道、波音、色鮮やかな景色、それら渥美半島の魅力を曲の中に詰め込みました。

あえて歌詞には固有名詞を入れないようにしました。なぜかという、音と言葉でイメージを膨らませて、それを現場で感じてもらいたかったからです。この地に訪れた方々が、もしかして、ここの事を歌っていたのかな？って思ってくれたら、イメージと実際の景色が重なって記憶に強く刻まれんじゃないかなと思ったんです。

新型コロナウイルス対策の為、なかなか出掛ける事が出来ませんが、この曲を聴いて渥美半島をドライブしている気分をイメージしてみたいですね。そして落ち着いたら、ぜひ渥美半島に足を運んでみてください。

### ボーカル担当 三浦克之

今回この曲を作るにあたって、テーマである渥美半島菜の花浪漫街道を聞いたとき、地元の観光地と言われている場所を頭に浮かべ、「天気の良い日にこんな曲を流し、自転車を運転していたら気持ちがいいだろう」と、イメージしながら曲を作らせて頂きました。

普段、曲作りをしていて意識していることは、曲を人間に例えています。音は体、歌詞は魂、その歌詞が体に入ることにより命が宿り感情が生まれます。

その歌詞を書いているリーダーの鈴木登士勝君にいつも頼ってばかりいたのですが、今回、自分の中で曲作りに対してこだわった部分は、【音使い】そして【ハーモニー】です。

音や、メロディー「だけ」を聴いて、その場の臨場感や雰囲気を感じて頂きたいという想いで作品を作らせて頂きました。

もちろん一番の想いは、この地元に誇りや愛着を持っているからこそ、自分達が納得出来る曲に仕上げることが出来たと自負しております。

この浪漫街道という曲をきっかけに、多くの方々に足を運んで頂き、地元の良さを届けられる事が出来ればと思っております。

三方海に囲まれ、自然豊かで食文化にも恵まれたこの素晴らしい環境の中で音楽をやっていただけることに日々感謝しております。

これからも田原市 PR サポーターとして、音楽を奏で、地元の良さを全国に届けていき、そして皆様に喜んで頂ける曲を作り邁進していきたいと考えております。